

徳島大学大学院 学生員 ○ 吉田健一
徳島大学大学院 正会員 近藤光男
徳島大学工学部 正会員 廣瀬義伸
徳島大学工学部 正会員 山口行一

1. はじめに

急騰する廃棄物問題に対し、全国各地でゴミ減量化・再資源化の必要性が叫ばれている。その具現策の一つに市町村・消費者・事業者各々に責任を分担させるいわゆる「容器包装リサイクル法」があるが、有効に機能しているとは言い難いのが現状である。

そこで、徳島県における一般廃棄物の減量化や再資源化を進める上で重要となる住民意識を把握するため、ゴミとリサイクルに関するアンケートを実施し、調査結果とゴミ問題に対する住民意識について報告する。

2. 調査概要

2.1 調査方法

分析に用いたアンケートデータは、徳島県が96年度に主催・協賛した各種イベントに訪れた方を対象にアンケート調査を実施したデータ(A)と1997年11月に開催された徳島県工業展(環境フェア同時開催)に訪れた方を対象にアンケート調査を実施したデータ(B)である。(A,Bともに集合調査法)

2.2 回答形式・回答者数

回答形式は、A,Bともに選択回答形式(一部自由回答形式併用)で、回答者数はAが1220名、Bが113名であった。

表1 サンプル数及び内訳			
調査	男性	女性	合計
A	687	533	1220
B	73	40	113

2.3 調査項目

調査項目は、個人属性に関する質問3項目(性別、年齢、職業)、ゴミ処理に関する質問7項目(A)、16項目(B)である。Bの質問項目をキーワードで分類すると、各質問項目で複数の内容を含んでいるため、回収・処理方法に関する質問12項目、資源化・減量化に関する質問11項目、施策に関する質問8項目、意識・行動に関する質問16項目となる。

3. 調査結果(個人属性比較)

性別、職業、年齢による意識差に違いが見られた例を図1、図2、図3に示す。

3.1 男女間の意識差

図1は、エコマーク・グリーンマーク商品の購入について質問した回答結果である。女性は「なるべく買う」(62.5%)が最も多い回答を得たのに対し、男性は「あまり買わない」(58.9%)が多数であった。

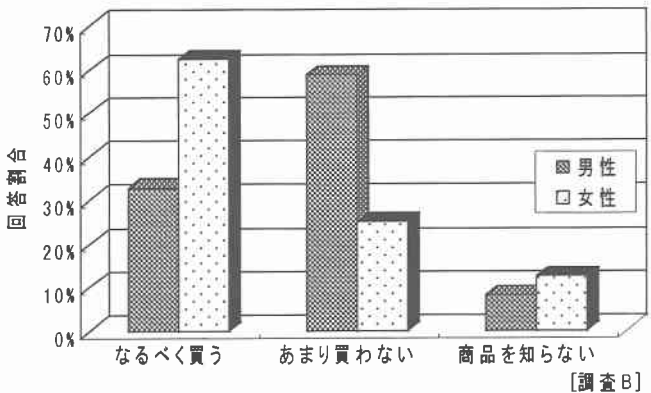


図1 エコマーク・グリーンマーク商品の購入について

3.2 職業別意識差

図2は、紙類資源化を促進するための回収方法について質問した回答結果である。質問が抽象的すぎたためか、各々の職業柄都合が良いと思われる回答結果となっている。

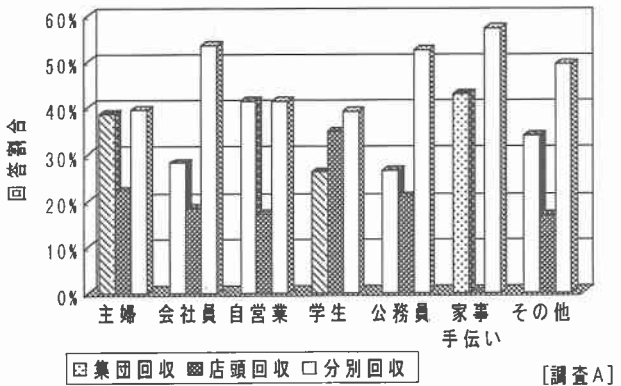


図2 紙類資源化促進のための回収方法について

3.3 年齢別意識差

図3は、買い物時の買い物袋の持参について質問した回答結果である。年齢の増加とともに買い物袋の持参率が上がっていることがよくわかる。

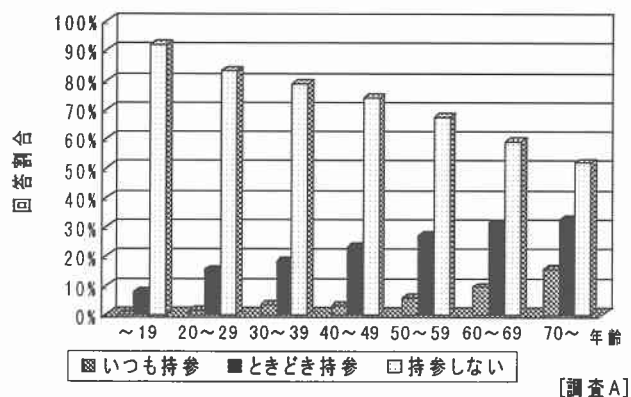


図3 買い物袋の持参について

4. 調査結果 (項目別意識差)

回答者が資源化・減量化などのごみ問題にどのような意識があるかを探るため、減量化意識、資源化意識、(施策等への)好意的度、無関心度の4つの視点に基づき、これらの視点との関係の度合いに応じて各質問の選択肢に0~5点の点数を与え、回答された選択肢の点数を視点別に合計した。そして、その点数に基づき、個人属性間の意識差比較を行った。

4.1 男女間の意識差

図4から、全項目において女性の方が男性よりゴミ問題に対する意識が高いことがわかる。

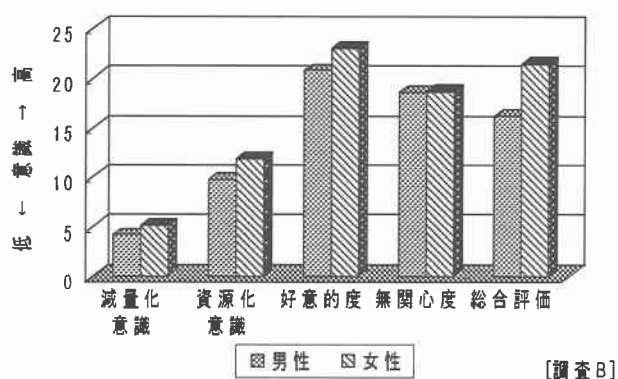


図4 男女間の意識差

4.2 職業別意識差

図5から、主婦・家事手伝いなどの家庭内従事者に減量化や資源化に強い関心が見られ、総合的に高い意識を持つことがわかる。一方会社員・公務員など外部従事者は無関心意識に強い傾向が見られる。

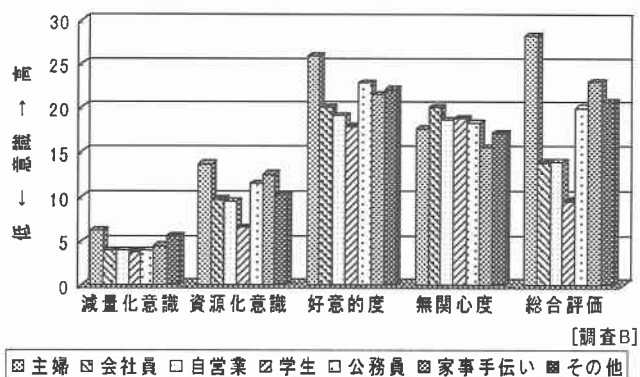


図5 職業別意識差

4.3 年齢別意識差

図6から、30代・40代の年齢層がゴミ問題への意識が低く、それ以外は年齢の増加とともに意識が高くなる傾向が見られる。

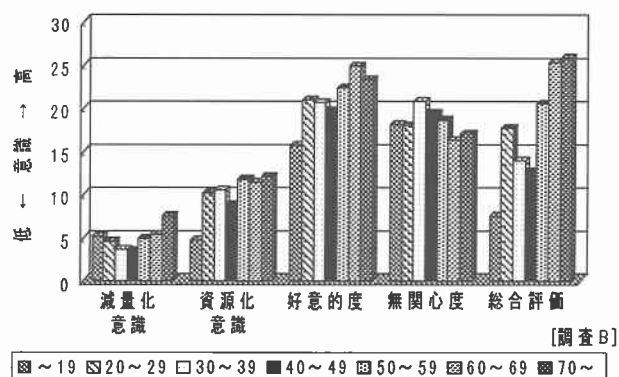


図6 年齢別意識差

4.4 年度別意識差

図7から、96年度より97年度の方が高いポイントを示し、ゴミ問題への関心は年々高くなっている。

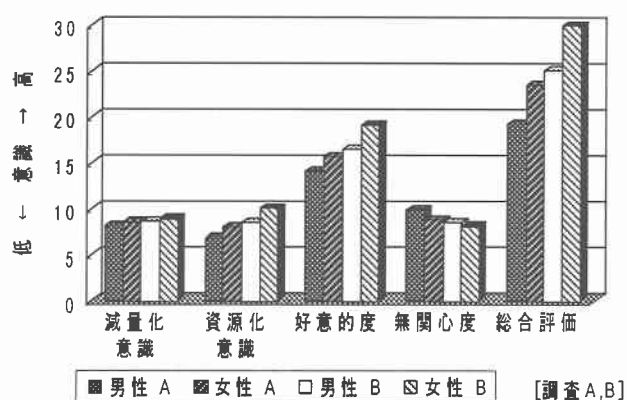


図7 年度別意識差

5. おわりに

年齢の増加に伴い買い物袋の持参率が向上する関係など興味深い結果を得ることができた。

今後はこれらの分析結果をふまえ、一般廃棄物の減量化・資源化推進方法を研究していきたい。